

### 3 まとめ

#### 第二期中期目標・中期計画期間の振り返り

最初に、全体的な評価としては次のとおりである。

「2.10 期待度・現状評価・満足度」冒頭にあるように、全 26 項目の図書館サービス全体に対する現状評価、満足度の平均値が、両方とも前回調査より上昇していることから、全体としては図書館サービスに改善が見られること、また利用者からの評価も向上したということが推測される。このことから、第二期中期目標・中期計画は一定のレベルで達成したと考えられる。

次に、前回調査で重視すべき施策とされたことについて、今回調査との比較により下記のことになった。

##### ①資料の充実

図書の実態に関する満足度は、館別、利用者区分の全てで前回調査から数値が上昇しているため、改善が進んだと推測される。今回調査では、重視する図書館サービスの中で図書の充実が利用者区分別、分野別の両方で上位 1～2 位であり、これは前回調査でも同様であったことから、今後も引き続きその要望に応じていく必要がある。そのため、蔵書整備の財源確保や適切な蔵書構築計画の策定が必要であるが、その他にも学内の図書館資料を効率的に活用する方策の一つである学内デリバリーや学内 ILL 等のサービスを一層充実させる必要がある。それについては、学内図書館・室相互の連携を強化する必要がある。また、国内外の機関を対象にした ILL サービスについても、同様に図書館機構全体で強化していくことが考えられる。

電子リソースの利用に関する満足度は、全体では前回調査と比較してわずかに上昇しているが、他の図書館サービスとの比較では中位程度である。一方、重視する図書館サービスでは、教員の場合は電子リソースの利用が図書の充実で次いで 2 番目に高いことから、研究基盤整備としての電子リソースの充実にも引き続き取り組んでいく必要がある。

##### ②場としての充実

附属図書館の「学習室 24」は、全体で 6 割、分野別では人社系で 8 割、自然系と総合系で各 6 割と、認知度が高い施設である。前回調査後に設置されたことから、他の図書館施設と比較して短期間でかなりの割合の利用者に浸透した図書館サービスと言える。

座席数に関しては、学部生の満足度が前回調査より数値が上昇したものの、今回調査では他の図書館サービスと比較して下位から 2 番目という状況であり、今後も引き続き課題として取り組む必要がある。

##### ③開館日の増加や開館時間の延長

開館日数と開館時間に関する満足度について、前回調査から数値は上昇しているものの、他の図書館サービスとの比較ではかなり低い。各図書館・室によって、開館日数や開館時間が異なっていることも原因の一つであると推測される。また利用者区分で見ると、学部生の満足度が今回調査では下位から 1 位と 3 位であり、前回調査からあまり改善が見られないため、引き続き課題として取り組む必要がある。

##### ④図書館発のサービスに関する認知度向上

前回調査では、学術情報リポジトリ「KURENAI」に関しては、認知度においてどの分

野においても下位に属するという状況であったが、今回調査ではそれを脱している。前回調査以降に研究成果のオープンアクセス化が世界的に進んだことにより、インターネットで検索可能となった国内外のコンテンツが増加したことや、今年度制定された「京都大学オープンアクセス方針」の影響もあり、今後ますます図書館発のサービスとして「KURENAI」の認知度が向上するものと思われる。

「学習サポートデスク」は、図書館サービスとしては新しい（平成 25 年度設置）ためか、認知度がどの分野でも下位 5 位以内と低い状況である。図書館の学修支援の一環として今後その内容の充実と、それと併せて広報にも力を入れる必要がある。

## 新たな知見

今回調査において、次のことが新たにわかった。

- ①図書館・室の利用目的において、雑誌の利用は前回調査と比べ 4 割近く減少している。特に自然系においては、それが著しい。冊子体について購読中止や電子ジャーナルへの転換が進んでいることも背景の一つと推測されるが、利用者の閲覧行動が冊子体から電子リソースへ変化していることが、数値として見える結果となった。
- ②前回調査になかった利用者区分による図書館・室の利用時間比較において、サンプル数は少ないものの、留学生の 4 割が 1 日あたり 3 時間以上図書館を利用している結果が出ており、長時間図書館に滞在し利用していることが推測できる。長時間滞在者の中では、学部生や大学院生よりも留学生の比率が高かった。

## 今後への課題

今回調査の目的の一つは、平成 28 年度から始まる第三期中期目標期間の事業の方向性を探るためのデータ収集にある。

前回調査で課題とされた「資料の充実」「場としての充実」「開館日の増加や開館時間の延長」「図書館発のサービスに関する認知度向上」については、前述のとおり図書館をめぐる環境の変化により新たに生じる課題にも同時対応する形で、引き続き取り組む必要がある。

それに加えて、今回調査から新たに知り得たことから、利用者の電子リソース指向に対応する図書館サービスの改善や、サービス対象者として改めて留学生にも着目した図書館サービスの向上が、新たな課題として浮かび上がってくると思われる。

第三期中期目標期間においては、図書館機構が全体としてより強力に連携しつつ、今回得たデータも活用しながら課題解決に取り組むという体制が、これまで以上に必要である。

## 謝辞

今回調査では、多数の本学学生と教職員から回答を得ることができ、また貴重な意見を数多く寄せていただいた。この場を借りて、調査にご参加いただいた皆様に感謝を申し上げる。

なお、調査の実施に際して、情報環境支援センターには回答用 Web ページ作成について、各部局等の総務担当部署には電子メールによる回答依頼の送付について、各部局図書館・室の図書系職員には部局内への積極的な周知、広報等について、附属図書館学習サポートデスクの学生スタッフにはアンケートの英文版作成において、それぞれご支援をいただいた。併せて、感謝を申し上げる。